

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（血液など）や診療情報（カルテの情報）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

<p>試料・情報の利用 目的及び利用方 法</p>	<p>●研究の名称 食道癌における SLFN11 陽性細胞の予後への影響</p> <p>●研究の対象 2003 年 1 月～2014 年 6 月までに進行食道癌の診断を受け、消化器内科で根治的化学放射線療法を受けた 73 名</p> <p>●研究の目的 癌の進み具合（病期）によりますが、食道癌では根治的手術ができる場合は、原則手術が治療の第一選択となります。しかし患者さんの体の様々な事情により、「手術可能な病期」であっても、「相対的適応がある非手術オプション」として根治的化学放射線療法を検討するケースが散見されます。それは、手術と化学放射線療法にはそれぞれ一長一短がある為です。治療前の癌の病期によって化学放射線療法後の大体の予後は統計的にわかっていますが、かなり進行した病期からも予想をはるかに上回る長期生存ができる患者さんもあれば、逆に比較的早い病期であっても予想した程には化学放射線療法の効果が及ばない患者さんもいらっしゃいます。「よく効く患者さん」と「そうでない患者さん」の違いを事前予測する効果的な方法はなく、前述のように患者さん個々の体の事情によって治療選択を迷うような場合には、担当医が悩みながら対応しているのが実情です。近年では、癌細胞に発現する SLFN11 遺伝子が癌治療の効果予測に有効である可能性がでてきました。ただし、SLFN11 が、食道癌の根治的化学放射線療法において本当に有効であるかはまだまだ不明な点が多くあります。この研究では、これらの治療を受けた患者さんのカルテデータや癌組織保存検体から、SLFN11 が食道癌の予後予測に有効かどうかを明らかにすることを目的とします。</p>
-----------------------------------	---

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

	<p>●研究の期間 倫理委員会承認後 から 平成31年3月末 まで</p> <p>●他の機関に提供する場合には、その方法 この研究では外部へ試料・情報を提供しません。</p>
利用し、又は提供する試料・情報の項目	<p>●研究に使用する試料・情報： 情報：病歴、治療歴、治療後の経過 試料：治療前に内視鏡で採取され保存されている癌組織 (新たに採取することはありません)</p>
利用する者の範囲	<p>●共同研究機関の名称及び研究責任者 本研究は単施設のため、共同研究機関はございません。</p>
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	<p>●研究責任者 浜松医科大学救急災害医学講座 診療助教 鏡卓馬</p>
試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することや、あなたの試料または情報を他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、問い合わせ先に記載のある電話もしくはメールでお願いします。</p>
資料の入手または閲覧	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>
情報の開示	<p>あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。</p> <p>また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する</p>

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

	場合は、原則的に結果を開示致しません。
問い合わせ先	〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：救急災害医学講座 担当者：診療助教 鏡卓馬 TEL：053-435-2261 FAX：053-434-9447 E-mail：t.kagami@hama-med.ac.jp